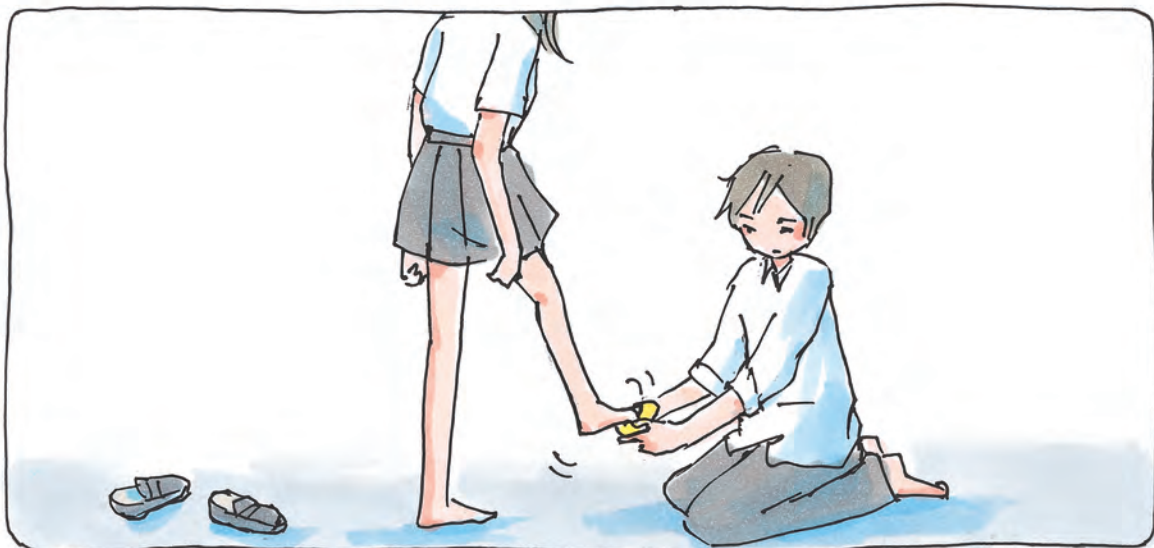


今日マチ子「再会」



¥0

ウオーターブルーフ 嘘ばかり！ (出張版)

松田青子
マツダアオコ

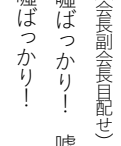
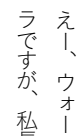
明転

設定 東京国立博物館の前。
おてこにはちまき、
肩からたすきの女 A と B。

今回もこれ以上ないってくらい
バカバカしく演じてください。

小津監督の名作、「お早よう」のラストシーン
のようにすがすがしく演じてください。

B もううんた
強くうなずく。



え
たいけなみゆうこ

A B 嘘ばかり！ 嘘ばかり！ ウオーターブルーフ
嘘ばかり！

B A いつまでも女の子の言うんじゃねー！
こちらら30過ぎてるっつうの！

A えーはじめてお目にかかります。我々「ちふれ」と
申しまして、社会にはびこる嘘をあばくため日夜活
動しております、皆様、化粧品会社「ちふれ」の正
式名称をご存知でしょうか？「全国地域婦人団体
連絡協議会」です。なんて間口の広い名称でしょ
う。要するにですね、女性が団体を結成したら、それは
すべて「ちふれ」であり、つまりは我々も「ちふれ」
である、ということなのです。普段は職場近くの公
園を拠点として活動しておりますが、本日は皆様に
どうしてもお伝えしたいことがございまして、こう
してここまでやって参りました。

A B 出張「ちふれ」でございます。
それにしても上野なんてひさしぶりね、副会長。そ
れにいい天気だこと。(微笑んで空を仰ぐ)

B A そうですね、会長。(同じく微笑んで空を仰ぐ)
えーコホンツ(周りの空気に気が付いたように咳払い、そ
れでは早速本題に参りたいと思います。我々「ちふ
れ」が皆様にお伝えしたいこと。それはですね、素
晴らしい、皆様は素晴らしいです！、まずそれを
伝えました。本当に感服しております。感服す
ることしきりです。列ができる場所といえば、開店
前のH&Mしかないのではというこのわびしい、こ

A B 世に、土偶展に並んでいるあなた方は本当に素晴らしい！
しかも1時間待ち！ トレビアン！
この1時間待ちは誇りに思っている1時間待ちだと思
います。
皆様あつての1時間待ちです。

B A 先日土偶展に列ができていたという情報をキャッチ
した時、私は胸にポツと小さな灯が灯ったような心
持ちになりました。そんなことがあるのかと思いま
した。そうして本日その情報が真実であるかどうか
を確かめるべく、また真実であるならば皆様をねぎ
らうべく、やってきたのですが、実際博物館の前に
皆様が形作った列を見た時、私は目頭が熱くなりま
した。ああ、またぶりかえしが。(Aポットからハンカ
チを取り出し目頭を押しさえる)

A (Bもハンカチを出し同じ動作)
失礼しました。正直私は日本の未来は明るいな、と
思ったのです。うれしかったのです。不況だと言
いつつも、おしゃれたロハスだ二次元だサブカルだ
と人それぞれでならばばらな方向にダッシュする
現代社会。けれどなんだかんだ言ったって土偶展に
列できるんじゃない、と。土偶展には人類を束ねる
超越した力があるのです。H&Mに列ができる日本
よりも、土偶展に列ができる日本が好きです。そん
な日本が大好きです！ 日本もまだまだ捨てたもの
じゃない。そのことに気付かせてくれた土偶展とあ
なた方に、我々「ちふれ」、心からの感謝をお伝えし
たいです。あなた方は希望の星です。本当にありが
とうございます！

A B ありがとうございます！(二人高校野球の選手のように深々と礼)
えー、本題はこれで済みましたが、1時間待ちの列
の中、皆様少々退屈もされていることと思います。
せっかくですので我々「ちふれ」のいつもの活動を

「私」はすべて「わたくし」と読んでください。

Aはかたずき飲んで
聞き入るリアクション。

B A あら、初耳。そうなの、副会長？
ええ、会長。お話し致します。男性の中にはあまり
ご存知ない方もおられるでしょうが、マスカラのポ
トルといいますのは、個々に多少の違いはありませ
んが、だいたいぶつと万年筆のような形状をしてい
ます。その中にマスカラ液というものが入っており、
内蔵のブラシを出し入れすることによって、マスカ
ラ液をブラシにつけ、そしてそのブラシをまつ毛に
一はけ二はけするとあーら不思議、目元にインパク
トが生まれます。私、今となつてはマスカラなしの
人生なんて1日たりとも想像したくありません。我
が人生で消費したマスカラの本数はある時点で我が
人生で消費した鉛筆の本数を上回ったのではないかと
思います。そしてまさにその時こそが、私が大人の
の階段を上った時ではないかと思えます。まあそん
な人生走馬灯はいいのですが、そうしてマスカラを
使い続ける中、一つどうにも拭いきれない気持ち悪
さがあつたのです。それはですね、マスカラの替え時
これは一体いつがベストタイミングなのだろうかと
いうこととございまして。マスカラ液が一液も残ら
ないほど使い切ったという経験もないですし、マス
カラに関しては使い切る時が替え時ではないという
まことしやかな噂もあります。ボトルの中の様子が
まったく伺えないため、これはもうすぐなくなるぞ
という目測がまったくつかず、落ち着かない思いで
す。いっそマスカラのボトルがハミガキ粉のチャー
プのように、使った端からつぶしていきけるような単
純明快な構造をしていてくれたら。内部の秘密を解





客フリ
してください。



A 副会長、素晴らしい着眼点です。成長しましたね。皆様、ともに叫びましょう。

A マスカラボトルにも透明性を！

A 副会長、ありがとうございます。皆様、副会長に大きな拍手を！

B それでは次は私の番でございます。実は私、最近世代とは何だろうか？と考えております。きっかけは、一曲の歌でした。先日とある歌番組で、とある

歌手の特集をしていまして、で、私も10代の頃よく聴いたなあなんて懐かしい気持ちで観ていましたんですけども、新曲が出たということで、ご本人のインタビューが流れたのです。かいつまんで言いますと、「最近の世の中はみんな元気がないので、でも私はものすごく活気があった頃の日本を知っているの、この歌でみんなを元気にしたい」ということでした。で、薄々嫌な予感がしつつ観ていけば、その新曲「とろけるリズム」の歌詞がですね、「世界中パテギみの中、女は常にマイペース、運気は景気良くアゲアゲです」「彼氏が今、プチ不調、自腹切って助けちゃおう！」「年齢不詳モチキャラで、ミルフィエのように年齢を重ねたい」「最強ウエーブに乗ってストッパーははずせ G O G O」など正気かと思うようなセリフのオンパレード。しかも「前の波に乗

いそいそ感を
出してください。



A B

り損なった方、この次こそ「一緒に」とか歌っておられまして、これには笑いを通り越して腹が立ちました。正直な所、バブル世代にはじめての殺意を覚えたくらいです。なぜなら誰も乗り損なってなんかいないからです！いくらバブルの頃が楽しかったか知りませんが、それはあなたの人生にとって一番良い時だったので、自分の思い出アルバムをこちらに押し付けてくるのはやめて頂きたい。景気とか運気とかうるさいよと思います。何が「ミルフィエ」のように年齢を重ねたい」ですか。土偶ぐらい長生きしてから言ってみる。

(腕時計を見て慌てて) 会長！ 時間です！

あら、大変。長々と「清聴ありがとうございます。まだまだ言いたいことはありますが、閉館時間が迫って参りましたので、ここで終わらせて頂こうと思えます。皆様の退屈しにぎにでもなっていれば、我々「ちふれ」、こんなうれしいことはございません。それでは副会長、私たちも僥越ながら列に参加させて頂きましようか。

ええ、この列の末席に加われるなんて光栄ですね、会長。

ほんとね、副会長。これは未来へ続く列よ。あらすこい、最後尾があんなに遠く。

楽しみですねえ、土偶。

楽しみですねえ、土偶。

(2人、うきうきと下手にはける)

B A B A B



はちまきとたすきを
はずしながら移動。

暗転

松田青子 Matsuda Aoko
身近な物事や人がもたらがる流行を、半歩ずれたところから眺め、たっぶりのユーモアと適量の毒を含んだ文章で切り取る、期待の新人作家。

たけなみ ゆうこ「takeami yuko」
脱力感たよ線描から、建築パースまで幅広く手掛けるイラストレーター。

「ウオーターブルー」は「つかり」の本編は、「早稲田文学」増刊「J30」で読むことができます。

JASRAC 出1004299-001

講談社◆話題の文芸書

「遠慮はいらないよ。
わけいって、わけいって、深く入っておいで」

土と草の匂い。横溢する生と性の渦。
女という山へ、深く深く潜り込み、男は、安息の一瞬に沈み込む。

げげんやま
怪訝山 小池昌代
定価1,785円(税込)
ISBN978-4-06-216164-0

豊穰たる自然と性への回帰。都市生活者の再生を謳う物語。



〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21 講談社



モーニング・ブック
女子言評
掲載

草子ぶっか 早稲田文学編

作画 玉川重機



草子です！

早稲田文学の3号
出ました！！

今号も
なんと両A面！！

どちらからでも
楽しめますよ！！

まず一方のA面には
ウラジミール・ソローキンの
「青脂」！！

この物語は2068年、
永久エネルギーを作るための
材料の「青脂」を獲得しようとする
お話なのですが

「青脂」はクローンとして再生
されたロシアの古典・有名作家が
執筆活動を行うと生まれる
という不思議な設定です

7体のうちのトルストイ4号
こんな事になってしまっています

ふつうの頭
は3倍ある
せいでか
涙ぐんでる

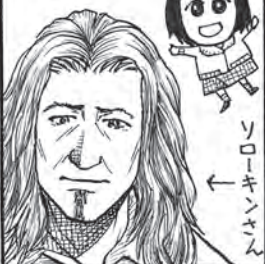


大きな
リンゴも
隠れる手
身長 112cm
体重 62kg

トルストイ4号

再生クローン

- トルストイ4号
- チェーホフ3号
- ドストエフスキー2号
- パステルナク1号
- アフマトフ
- ロシアの
文豪オール
スターズ



ソローキンさん

小説を書きあげるとクローンは仮死状態に
入り青脂がたまっていくのだそう



もう一方の
A面の特集は
ゴドモとの「文学」

草子6才

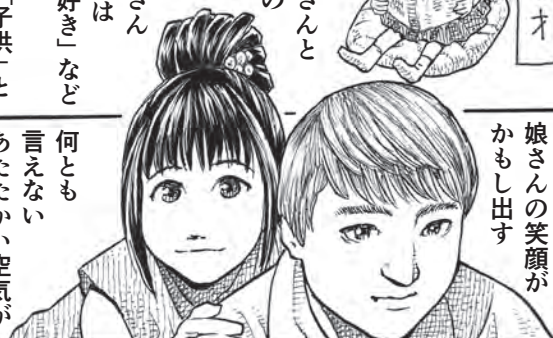


子供と大人の間の
「文学」：
篠山紀信撮影
表紙・グラビアの
東浩紀さんと
娘さんの笑顔が
かもし出す

西原理恵子さんと
重松清さんの
「親子って
なんだらう」
対談や
斎藤美奈子さん
「国語教科書は
「悲劇」がお好き」など

歩き出した「子供」と
立ち止まる事を許され
なくなった「大人」の
間の「文学」の距離が
面白いです

何とも
言えない
あたたかい空気が
全てを
物語ってる気が
しましたよ



特別付録として古川日出男さん本人による
「聖家族」の朗読DVD200分！！



「声」が熱として残りました

黙読と違い朗読は 頭だけじゃなく
体に「言葉」が伝わる気がしました

*第23回早稲田文学新人賞選考委員をされました。受賞作・青沼静哉「ほかいど」もってます！

そして増刊
ワラジミール・ソローキン
U
Wassubun
30
のお知らせも！

30歳以下の人達で
構成されている
増刊のテーマは
「変身」

生まれた時から
身のまわりに
デジタルが
存在していたで
あろう5人の
作家さんの
それぞれの「変身」、
興味深いです

本も変身の時代？
きちゃった？



目まぐるしい速さで色んなものが
変身していく時代

情報が窒息しそうなほど
あふれてく
その中から自分にとつて
大切な何かを見つけた
道標に

早稲田文学はなるような気がします



おまけのお知らせ

「草子ブックガイド」
第2話執筆中！！

モーニング・ブックで
夏にお会いしましょう



「本よ死ぬな。本よ死ぬな死ぬな死ぬな。
死なせないために声に出す。たとえ字が
死んでしまっても。たとえ紙が死んで
しまっても。それでも本がある。
ここにも本がある。」

おしまい



表紙は今日マチ子さんの
透明感のある
掌編漫画。
(連作「転換」
全4作のてますよ)

旧作異聞

20



『放浪記』(新潮文庫)



斎藤美奈子
Saito Misako

56年生。94年、『妊娠小説』で評論活動を始める。古典とベストセラー、時事問題からマンガ・アニメまで、題材の硬軟を問わず舌鋒鋭く論じる著作には、読者の物の見方をひっくり返す「目からウロコ」が満載。『文芸春秋』『本の棚』など。

広島県の尾道は林美美子の町である。尾道駅に近い商店街の入り口にはカバンを傍らにしゃがみこむ美美子の像が建ち、観光名所である千光寺公園には『放浪記』の一節を採った美美子の文学碑。その近くの「おのみち文学の館」の一角には美美子の書齋を再現した記念館があり、少し離れた市立図書館にも「私のコーナー」がこの図書館の中にありますので、ぜひご覧ください。美美子」と書かれた看板が出ていた。林美美子は尾道市民に愛されているのだなあ、と訪れた人はみな思うだろう。

しかし、「では原作も」と思って『放浪記』を手にした人は「なーにこれ。どうなってるの!？」と思うにちがいない。

理由のひとつは、小説のように登場人物やストーリーがはっきりとした読み物ではないこと。『放浪記』は美美子が一九歳だった一九二二(大正一一)年から五年にわたる雑記帳から一部を抜粋した本である。詩あり、読んだ本の感想あり、日記風の記述あり、日々の悩みを綴った箇所あり。今日の感覚でいえば、ブログみたいなものだ。

もうひとつは、この本の構成がたいへん込み入っていること。『放浪記』が出版されたのは一九三〇(昭和五)年だが、評判がよかったため、出版元の改造社は、続いて同じ雑記帳から別の部分を拾った『続放浪記』を出版した。しかし、当局の検閲を恐れた未発表部分はそれでも残った。残りが公表されたのは戦後になってからのこと。現在の新潮文庫版『放浪記』には、この正編、続編、戦後発表分が、第一部、第二部、第三部として収録されている。同時期の内容が三度も螺旋状にくり返されるのだから、頭が混乱するのも当然なのだ。

という風に一筋縄ではない『放浪記』なんだけど、この中から尾道にかんする記述を探すと、これがまた意外と少ない。

『放浪記』第一部は(私は北九州の或る小学校で、こんな歌を習った事があった)と書き出される。あれっ、九州なの? そう、林美美子の生地は北九州の門司なのだ(門司にも美美子の資料

館や文学碑がある)。ついでにいえば本籍は母の故郷・鹿児島県桜島の古里温泉(ここにも美美子の文学碑と像がある)。そしてこの後、『放浪記』の舞台は東京に移り、女中や女工やカフェの女給など、職を転々とした彼女のフリーター生活が綴られていくことになる。

尾道が登場するのは第二部の真ん中あたり。八月のある日、母とその夫が住む尾道に彼女が帰ったときの記述である。
海が見えた。海が見える。五年振りに見る、尾道の海はなつかしい。汽車が尾道の海へさしかかると、煤けた小さい町の屋根が提灯のように拡がって来る。赤い千光寺の塔が見える、山は爽かな若葉だ。緑色の海向うにドックの赤い船が、帆柱を空に突きさしている。私は涙があふれていた。

『放浪記』の中でも、ここはもっとも美しい尾道の描写とわかっていいだろう。千光寺山の文学碑にも、だからこの部分が引用されているのだが、逆にいうと、この部分以外に引くべき箇所は見つからない。『放浪記』は尾道を描いた作品ではないのである。

尾道は美美子が小学五年に編入した一三歳から女学校を卒業する一九歳まで、約六年間をすごした町だ。初めての恋愛をしたのも尾道、文学を志したのも尾道での女学校時代である。その意味で、ここが彼女にとって思い出深い土地であるのは事実だろう。が、美美子は尾道のことをほとんど書き残していない。唯一の例外は行商で生計を立てる両親とともに尾道に移住した子どもの頃を描いた小説デビュー作『風琴と魚の町』で、これは戦前の海辺の町の活気が伝わる好短編だけど、尾道市の観光資源としては地味すぎると判断されたのだろうか。

かくて作家の年譜と『放浪記』の中のほんのちよびりの尾道の記述を大事に大事に愛することで尾道の林美美子観光は成立し、一方、肝心の『放浪記』の中に尾道を探そうとする裏切られたように感じる。この町とテキストの間には、不思議なねじれが生じているのだ。

ママを亡くしたあたしたち家族の世話をしにやってきたフローおばさんは、死んだ人を清めて埋葬の準備をする「おとむらい師」だった……。19世紀半ばの大草原地方を舞台に、母の死の悲しみを乗り越え、死者をおくる仕事の大切な意味を見だしていく少女の姿をこまやかに描く感動の物語。

The Shrouding Woman

とむらう女

ロレッタ・エルスワース 代田亜香子[訳] ●1680円



金原瑞人選 オールタイム・ベストYA 好評既刊2点!

あたしはパパの名も知らず、ママも幼いあたしをおばさんに預けて出て行ってしまった。でもあたしは、自分の名前をホープに変えて、人生の荒波に立ちむかう……。ウェイトレスをしながら高校に通う少女が、名コックのおばさんと一緒に小さな町の町長選で正義感に燃えて大活躍。ニューベリー賞オナー賞に輝く、元気の出る小説。

ジョン・ハウアー 中田香[訳] ●1890円



ホープ

希望のいる町

作品社 東京都千代田区飯田橋2-7-4/ 価税込
TEL03 (3262) 9753 FAX03 (3262) 9757

フリーペーパーなんだから、
街へ出てゲットしろ、
もしくは郵送で送ってもらえ、
俺の文章はデータじゃねえよ。
(※編集部注…モブ・ノリオ氏の「<http://www.ign.or.jp/>」より引用)
…という著者の意向により、「絶対兵役拒否宣言」は紙版でのみ掲載しております。

Waseda Bungaku Free Paper

WB vol.19

2010年4月25日発行 (年4回刊)

Published by 大日方純夫

Edited by 芳川泰久 (Editor in Chief)

横山絢音 青山南
福井咲貴 江中直紀
立花聡子 貝澤哉
関口拓也 十重田裕一
近藤景亮 三田誠広
山本浩司

窪木竜也
朴文順

市川真人
(Concept & Direction)

Design momoko p09 矢萩多聞 p02-03

Special thanks to 青木誠也 都丸尚史
山崎貴之 和野潤

編集・発行 早稲田文学会 / 早稲田文学編集室
169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-9-12
小池第一ビル 203

TEL/FAX 03-3200-7960
<http://www.bungaku.net/wasebun/>

印刷 凸版印刷株式会社

112-8531 東京都文京区水道 1-3-3
TEL 03-5840-4845 FAX 03-5840-1676
<http://www.toppa.co.jp/>

▼春は出会いと別れの季節、だからではないけれど、谷川氏 + 柳野氏の「子アリ・バツアリ」対談は後からじわじわ効いてきます。深夜に自室で読むことをオススメ。▼今号も様々な方の力を借り、ご迷惑をかけたつ、本誌と増刊発売お知らせ号をお届けします。(K)
▼次号 vol.20 からリニューアル予定。今号広告マンガをお願いした玉川さんや、話題のアノひとやあの一との連載も? Kくんが進行ぜんぶ切り盛りしてくれるぶん企画に専念できます。どうぞ御期待。
▼望月旬々氏の連載は編集部都合でお休みです、すみません。(ic)

Web上で閲覧できる電子ブック



読める!
めくれる!
検索できる!

早稲田文学 はらっと 検索

WBのバックナンバーは「はらっと」で検索・閲覧!

TRM 東京レコードマネジメント(株)
<http://www.tgn.or.jp/trm/>

これから、俺たち、
どうすりゃいいんだ。
そうだ、ベルクへ行こう

コーシー ¥210 生ビール ¥315

Beer & Cafe
BERG

☎03-3226-1288

<http://www.berg.jp>

↑ベルク通信、全バックナンバー
がご覧になれます。

JR 新宿駅東口改札出てすぐ
(ルミネエストB1)

時たま、思い出したかのように突然授業で連れて行かれる図書室は、平生の静けさが破られ、ぐんと明るかったのをよく憶えている。

授業の時は、必ず一人一冊本を借りるというのがお約束であつたので、本棚からは次々と本が取り出され、替わりに板が挿こまれる。その、ざらりとした白が本棚を染めるのに目を凝らせば、そこにひらがなで書かれた名前がここから本を借りたのだと声高に叫んでいるの見える。貸出カードを見て、水島君は大人っぽい本を読むのね、先生びっくりりしちやつたなどと言わねばならぬことながら、本を抜いたあとにこの板を挿さねばならぬのがひどく癪だつた。そして、子供らしくはしゃいでみせるクラスメイトを眺め、満足げに微笑む大人の口元を見てはぞつとしたものだつた。

呼びさまされた苦い気持ちに顔が歪む。焦点のぼやけた目に小さく潰れた文字が寄る辺なく揺れている。瞬くと、本を持つ自分の手と、ぬるい机の感触が波のように押し寄せた。ああそうだ、今は美袋先生の「読書の時間」で、いつものように教室ではなく、図書室に来ていたのだつた。

淡々と続いていた足音が止み、後ろの方で遠慮がちな囁き声が出た。本を握る手が震えるのを隠して顔をきつく閉じた。胸に四角い図書室が生まれ、音もなく本棚が並び机と椅子が姿を現す。ぼんやりと人の形をした色が本を手にして座し、床にはしる影が揺らいで起き上がる。それはやがてほっそりとした線を描きだし、美袋先生の形になる。影は真黒に濡れて見ることはできないが、小さな声に耳を傾ける顔は薄く微笑んでいるのだろう。振り向こうとする身体を押し止めた時、笑い声が花のように散つた。胸の奥が静かに焦げ、四角い図書室がぐしゃぐしゃになる。押しつぶされた残骸が丸まって身体の内へ落ちていく間、目は乾いたまま茶色い字を映していた。いま、誰かに顔を覗かれたなら、目からことばが一音にあふれ出してしまふそうだった。目が濾して身体の内へ吸い込んだことばと、外へ零れだしそうな文字がせめぎあっている。

切れ切れに吐いた息を遮って、チャイムが鳴った。

nanakikae

本好きがこうして手製本やブックカバーまで自作してしまう「文学少女」。ブログ日記「日々是読書 (<http://gosui.exblog.jp/>)」が人気を博し、「彷彿月刊」で連載を持ちつつ、風呂敷に教科書や本を包んで学校や図書館通い、永遠の愛読書は『崖の館』(佐々木丸美)、『自負と偏見』(オースティン)。

放課後 学級文庫

③ 夜果てのキャラバン

放課後の図書室は春の気配に泥ん^{どろ}でたためたつていた。美袋先生がいつしかそうしていただけに張出窓に腰掛けると、浮いたままの上履きの先が見えた。あとどれだけ本を読めばおれの足は床につくようになるのだろう。窓に頬を押し当てると、薄桃の花が揺れるの見える。

この四角く薄暗い部屋では、何もかもが遠い。外のざわめきすらやさしい葉擦れにまぎれ、とろとろと薄らんでいく。膝に載せた本の重みだけが身近に感じられ、紙で作られた函の角を指で辿る。函の側面から覗く本の背を押すと、ゆつくりと天鷲絨^{びろうど}のような手触りの表紙が顔を出す。厚みのある本文は茶色に染めた紙を綴じたもので、時が沁みたように灼けている。綴じの柔らかい本を開くと、古い本の匂いが立ちのぼつた。

ぬるい夜をはしる獣がいるならば、それは人のかたちをしている。

という一文から始まるこの本は、もともとは祖父のものだつた。ぬるい夜という響きがすきで読み始めた時にはすでに綴じ糸が緩み、表紙が剥がれかかっていた。そのまま何度か読んでいたのだが、ちょうど一年前の今頃、図書室で開いた時に、はたりと音がして、表紙と本文が離れてしまった。

ふたつに分かれた本を見つめていると、目の前が翳つた。細く伸びた影の中に閉じこめられて見上げた先には、知らない大人が立っていた。

直しましようか。大切な本なのでしよう。

告げられたことばを咀嚼するのに大分かかった。頷くと、その人は唇をゆるめた。きれいに外れているから、だいじょうぶ。

本に熟れた指が紙の上をすべるのを見ていたのは、そんなに長い間のことではなかつたように思う。気がつけば分厚い辞書類が高く積まれており、下の方に祖父の本が挟まっていた。引き戸の立てる音に振り向くと、細い人影が出ていくところだつた。呼びとめた廊下で、本を開こうとしていたその人は不思議そうな顔をした。静かな目に、きゆうに何を言えいいのかわからなくなる。口をついて出たのはお礼ではなく、名前だつた。

そう。新くんというの。私は美袋です。四月から週に一度授業を持ちます。あの日、美袋先生はそれだけを言って去ってしまつた。

その時の後ろ姿が、茶色い行間に溶けている。古い本の甘い匂いにひとすじ混じる苦さに、本を閉じた。

絶えることのない望みは、果てぬ夜が遠い朝を追うさまに似ている。

Final Dragon Library World 3

ファイナルドラゴンライブラリー

米光一成 *Yonemitsu Kazunari*

64年生。名作落ちゲー「ぶよぶよ」はじめ多数のゲームをつくるほか、小説をゲーム化しようとする『日本文学ふいんき語り』や、『仕事を100倍楽しくするプロジェクト攻略本』等、ゲームという視点から幅広い活動を見せる。
<http://blog.lv99.com/>

ナカシマカズユキ *Nakashima Kazuyuki*

67年生。作品によりまったく異なるテイストに描き分けるイラストレーター。以下のURLにはムチムチプリプリしたキャラクターたちが勢ぞろい。
<http://www.nk-w.jp/>

🍌 ぼくは勇者に向いてない『残像に口紅を』編

“やるつもりだし、もうやっているのかもしれないよ” 佐治はまたにやりとした。「現在われわれは、その小説の中にいるんだからね」

『残像に口紅を』という小説は、奇妙だ。

主人公が、小説の中にいるってことに気がついている。

“話が省略されたいらしい。いつまでも身がすくんだままでは進展がないからだろう”なんて考えるのだ。だが小説を書いているのは、そう考えた主人公で、でも本当は筒井康隆という作家が書いていて、頭がこんがらがってくる。蛇が自分の尻尾を呑み込むウロボロスという図章がある。そんな感じの小説だ。

でも、考えてみれば、ぼくは、どうなんだろう？ 図書館で出会った少女に手をつかまれて、突然現れた穴に引きずりこまれて、次々と手渡される本を読みながら、奇怪な冒険のまっただなかにいる。今さっきだって、そうだ。まさに牛頭の巨人が、ぼくめがけて剣を振り下ろそうとしていたのだ。

そこにまた現れた少女。手渡されたのが『残像に口紅を』だ。

「現在われわれは、その小説の中にいるんだからね」という主人公の言葉は、ぼくがつぶやくべき台詞じゃないだろうか？

ぼくも、何かの小説、っていうよりも、これはテレビゲームかな、そんな虚構の中にいるって考えたほうが理にかなっている。かなってるかな？ ぼくは、こうして本当にいる。それは実感として知っている。哲学者じゃないから、その実感も虚構かもしれないと言わない。そうすると、やっぱりテレビゲームの中にいるなんていう馬鹿馬鹿しい考えを持ち出すより、へんなことに巻き込まれている（もしくは、ぼくの頭がへんになっている！）って考えたほうがいいのか。

『残像に口紅を』の奇妙さは、まだある。なんと、章が進むにつれて、音が、ひとつずつ消えていくのだ。“つまり『か』がなくなれば『漢字』とか『鏡』とか『ぴかぴか』とか『フォーカス』とかのこともなくなる”。しかも、言葉がなくなると、その実体も存在できなくなってしまう。「ぬ」がなくなると「いぬ」がいなくなる。「ふ」がなくなると娘の「文子」が消失してしまう。一緒に食事していた人物が一瞬にして消えてしまう。新幹線も消えて、移動もままならない。

他の登場人物は、理解不能な事態に困惑し混乱し悲しむ。が、主人公はこの小説を書いている本人という設定なので、この事態を理解している。理解していても、悲しんだり困惑したりはするのだけでも。

今まで、ぼくは小説を読むとき「なにが語られるか」を楽しんでいた。どんな冒険だろうか。どんなかわいいキャラが出て

くるだろうか。どうやって危機を脱するのだろうか。でも、ぼくは『残像に口紅を』を読んで、はじめて「小説がどう語られるか？」に興味を持った。音がなくなりモノゴトが消失していく。それと同時に小説は奇怪な文章になっていく。なっていかなざるをえない。だって、文字が使えなくなっていくんだもの！

なにしろ、第三部に入ると、世界からはすでに「あ」と「ば」と「せ」と「ぬ」と「ふ」と「ゆ」と「ぶ」と「べ」と「ほ」と「め」と「ご」と「ぎ」と「ち」と「む」と「び」と「ね」と「ひ」と「ぼ」と「け」と「へ」と「ぼ」と「ろ」と「び」と「ぐ」と「ぺ」と「え」と「ぜ」と「ぐ」と「す」と「ぞ」と「ぶ」と「ず」と「づ」と「み」と「ぎ」と「ど」と「や」と「じ」と「ぢ」と「き」と「で」と「そ」と「ま」と「よ」と「も」と「げ」と「ば」と「り」と「ら」と「る」が消えている。だから、文章もこんなふうだ。“勝夫はついに着いた。疲れたな。発汗していた。しかし断崖に立って典雅な快感。晴れ渡った暮れ方の紅の彩雲は偉観だ”。残ってる二十一しかない音を使って、小説が進んで行く。“なんてこった。勝夫の慨嘆。意外。囲いが立っていたのだった。勝夫は突っ立った。だいたいこんな板の囲いなんてなかったのに”。

そして、これ以降も、どんどん音が消えていく。そう、最後には、すべての音が消えるのだ。この表現のアクロバット。文章のサーカス。言葉のマジック。“どう語られるのか”が強いベクトルとなって、ぼくは読んだ。読むのをやめられなかった。

気づいたら、牛男も消えていた。ってことになってれば良かったのだけど、現実そんなふうにはならなかった。読み終わって、ふーっと充実のため息をついた瞬間に、巨大な牛男の剣が振り下ろされた。激痛が走った。



To be continued.

未来の読書と ランデブー

新城カズマ

Sinjou Kazuma

生年不詳。無類のSF好き高校生の青春小説『サマー/タイム/トラベラー』はじめ多くの著作をもち、『ライトノベル「超」入門』『物語工学論』等の評論も手がける。ブログ『散歩男爵』『Twitter (id:SinjouKazuma)』も絶意更新中。長篇『15×24』等。

第03回 ● 未来の公共性に出逢ったら ONE-PP03

某月某日、都内の某ファミレスにて――

新城「(携帯にむかって)や、ほんとにすみません、原稿遅れてます。NOVA2の短篇に手間取ってしまって。はい、なんとか今週中には。……さて大変だ、メ切間近で睡眠不足で、おまけに肩こりがひどくて体が動かない。ちなみに今回頂戴した題材は……LayeredReading……レイヤー化された電子書籍だって？ 電子書籍のページ上に、ちょうど半透明の薄い膜を敷いたようにすることで、読書中の内容や関連情報について会話を交わせる、と。最近話題のKindleとかiPadとかにも繋がるのかな……」

F「そこが肝要でござります、殿」

新「わ、また変なのが現れた。君がもしかして、噂の電子書籍リーダー？」

F「さにあらず。拙者、中興の祖・電子書籍の五世孫にして電網往来レイヤー技術の粋を集めたる未来型御側衆、その名もソーシャル・フィルタリング・サービスの丞兼采と申すもの。以後見知りおき下さい。おや、たいふ御肩が凝っておりますな、どれ一つ拙者が」

新「……………(←呆然としたまま肩をもまれる)」

F「殿、そこで『なんだ君は！』云々とツッコんでくださらぬと、話が前へ進み難く御座れば」

新「あ、そうか。ごめん。で、一体君は何なんだよ！ ソーシャル……ネットワーク・サービスだったらもう間に合ってるよ。ツイッターもタンブラーもやってるし、mixiも入ってるし」

F「畏れながら、殿、SNSでは御座らん。SFS、フィルタリングに御座候。最前より御覧の、そのブログ記事、レイヤー電子書籍の更に分かるように。そも、レイヤーとは何ぞや。電子書籍の偉大なりし由縁とは何ぞや。その縁起より語りおこせば、上の世、神君デカルトの夢の裡より……」

(以下、約四百年分のコンピュータの歴史が語られること二時間半)

ウェイトレス「おかわりは、いかがですか？」

新「あ、じゃあカルピスソーダを。ええと、それで何だっけ。ああそうだ、パソコンがネットになって携帯化してSNSで位置サービスが電子パッドしたところだったね。最初はリンク、次にコメントとタグ、そしてレイヤー表現があらゆる人々と場所と書物の『今』『ここ』を繋ぎ始めた、と」

F「左様！ して、その次に生まれしが、我らフィルター四兄弟に御座候。電子書籍発売の当初こそ、やれこちらの機種が軽いけの、あちらの機種がお得だのと、朝家をあげての喧しさ。しかして書物電子化の本質は、実に出版と放送と通信の完全融合、即ち意見表明行為の万民への開放にありしこと、未来においては既に常識の当たり前の言わずもがな也。かくして四海万民が一斉に己が意見を表明し、それを整頓すべくタグとレイヤーが付されたりしも、当然ながら――」

新「――今度はタグとレイヤーが多すぎて、自分にとって意義深い情報を見つけるのが面倒くさくなる。なるほど、それでフィルタリングか。究極の助言システム、カスタムメイドの情報濾過&味付けサービスだ！」

F「文字・音声・映像はもちろん、匂い・肌触り・気温・街の雰囲気に至るまで、増やすも減らすも自由自在にて。殿、ちょびっとお試しあれ」

新「(未来っぽいメガネをかけさせられて) おお、これは！ ファミレス店内が広々としたアール・デコ調になって、ウェイトレスも美人だらけ！……そういえばネット通販のアマゾンも、昔から『おすすめ』機能があったな。あれも、ものすごい勢いで有能になっていって、ほんとに『自分でも気づかなかったけれど自分には必要そうなの面白そうなの意義のある書籍』をどんどん教えてくれたっけ」

F「いや御明察！ アマゾンの守殿は、実は我らが母方の大叔父にて御座候」

新「でも、あの機能は便利すぎてちょっと怖いなよね。『自分でも気づかなかったけど自分にとって意義あるもの』を次々に教えてくれるってことは、その間に僕は『自力で見つけてたかもしれない別の情報』に出逢いそこねてるわけで。自力で試行錯誤するチャンスを奪われても可い。だろ？」

F「確かに、初期にはそのような議論も御座ったとか。日く、フィルタリング機能が有能過ぎて、心地良い情報のみに浸るようになる。日く、敵しい他人の意見に耳を貸さぬようになる。日く、親はどこまで子のフィルタリングを設定すべきや。もしも狂信的な親が子供らの幼少期に強烈にして歪みたるフィルターを与えたる場合、それは果たして正統なる教育か、それとも社会に有害なる狂信の伝授拡散か。そしてついには、政府はどこまで国民をフィルタリングするが善き政治なりや……」

新「なんか今と変わらない話題だなあ。でも君のフィルタリング機能ってのは、今よりもっと完璧なわけで……これじゃ気に入らない情報と決して出逢わずに済む、というか、出逢いたくても出逢えない。星新一のショートショートみたっけ」

F「や、そのへんの設定は如何様にもお好みで」

新「でも、わざわざ気に入らない情報と出逢いたがる人なんて滅多にいないだろ。ていうか『出逢いたくない情報と出逢いたがる』時点で、それは出逢いたがってる情報に含まれちゃう。本当に嫌な出会い頭、最悪で胸がむかつくような未知の情報ってのは、目に入って来なくなり……公共性という概念そのものが消え失せてしま……いや、すでにそうなるのかも。表現の自由・言論の自由が完璧に保障されても、目をそらす技術がそれ以上に発達してたら、表現の自由は本当にあるんだろうか。『表現の自由』というのは、その裏側に『本当にむかつくウザい意見(少しは) 摂取する義務』が必須なんじゃないかろうか？」

F「何を仰りたいので御座りますか、殿」

新「うーん。実は僕にもまだ結論は出てないんだけど。とりあえず本日のおすすめ書物はこれで：

『インドアスの破壊についての簡潔な報告』

ラス・カサス (岩波文庫)

SFSの丞くん、君の時代にこうした本はまだ読まれてるのかな？ それとも、誰でも読めるけど実際は誰ひとり読むことなく、この本のデータだけが電子の海でまどろみ続けているのかな？ ……SFSの丞くん？ あれ、どこに行ったんだい？ SFSの丞くん？ ウェイトレスさん？ ……」



現役早稲田大生、 平成生まれの二十歳 デビュー作。

10万部 突破!



ページのどこかに、あの頃のあなたがきつといる。

バレー部の頼れるキャプテンが部活をやめる？
その波紋は同級生たちに広がり……
キラキラと光り輝く学生生活を描く青春小説。

朝井リヨウ

桐島、部活

やめるってよ

第22回 小説すばる新人賞受賞作

好評発売中・定価1,260円(税込)



(あさいりょう) ●1989年生まれ。岐阜県出身。早稲田大学文化構想学部在学中。本作で佐藤賢一、村山由佳、荻原浩らを輩出した「小説すばる新人賞」を受賞しデビュー。

◎WEBで石田衣良さんと対談が読めます！
▶ <http://www.shueisha.co.jp/kirishima>

〒101-8050 東京都千代田区一ツ橋2-5-10

集英社

「いつか世界中の図書館を「カーリル」でつなごうとも思ってるんです」吉本さんがそう言って見せてくれた開発画面では、Google マップの世界地図上に、各国の主要な国立図書館の所在地を示しているらしい、いくつものバルーンが浮かんでいる。

その地図の中央や右にある小さな日本の、さらに中央付近を拡大していった先、名古屋からJR中央本線で北上して1時間ほどの中津川からさらにふた駅長野に近づいた坂下駅近くに、RY SYSTEM はあるのだった。

ふだん分散しているメンバーが集中的に顔をあわせて開発する合宿宿舎にもなるという一戸建て二階のオフィスで吉本さんは、「カーリル」開発のきっかけとなった中津川市の図書館システムの開発について、次のように語り始めた。

「最初は、中津川市に新しい図書館をつくるためのシステム開発でした。でも、計画された図書館が実際にできあがるまで数年かかる以上、そのころに本と図書館がどうなっているかわからない。しかもいぼん驚いたのは、現行の図書館がネットに公開している検索・予約システムに登録しているひと自体、驚くほど少ないことでした」

そもそも中津川市の防災情報システムを手掛けていた吉本さんは、分散化したコミュニティ（職場、地域、学校……等）の情報システムをゆるやかに結合し、ユーザーがそれらの情報を横断的に受けとるシステムを開発していたのだという。それも、たんに一次的なシステムを開発するだけでなく、住民をそれらにどう誘導し、どう情報を届けて利用に導くかというアーキテクチャの構築を地方自治体規模で手掛けていて、たとえば火事情報のシステムは、119 番通報があると自動的に登録者にメールが送られるようになっている。誤報もそのまま送られるが、「火事が多いから注意しましょう、というのが防災情報の主旨なのだから、誤報でも機能を果たすんです」と吉本さん。「行政や公共サービスのこれからの役割」が裏テーマだったという彼の中津川での仕事にこれ以上ここでは踏み込まないが、発想したいがユニークかつ合目的性の高い試みを行っている吉本さんが（RY SYSTEM のサイト <http://rysys.co.jp/> を訪れると、小学生からC言語を使いこなしたプログラマーである彼の中学・高校時代の論考や、ご母堂による魅力的な観察記録（？）を読むことができる）、以前からの仲間であるNotaのメンバーたちとインターネットを利用して自分たちの日常を記録し便利にする「ライフログ」をテーマに行った企画会議から生まれたのが、「カーリル」だったのだ。

図書館の蔵書情報の横断検索は、たとえば東京都の「東京都立図書館横断検索」システムのように、すでに四十の都道府県でそれぞれに実施・公開されている。国内の出版刊行物の網羅を目指す国立国会図書館には「国立国会図書館蔵書検索・申込システム」がある。

前者を使えば、自分の読みたい本がどの図書館にあって貸出中かどうかもあり、図書館で事前に登録すれば予約もできるし、それらの都道府県を越えた横断検索システムも、「カーリル」に先行して09年9月に公開された「Libron」<http://libron.net/> はじめ存在する。後者は、古典籍から現在の刊行物に至るまで、日本国内のすべての本が（理念上は）すでに検索できる。

そもそも「カーリル」のメンバーたちは、直接に図書館の委託を受けてそれを開発したわけでもなければ、特別な情報にアクセスできるパスを持っているわけでも（現時点では）ないのだから、「カーリル」の特異性や魅力は、そうした部分にのみあるのではない。「カーリル」のおもしろさは、前記

したような各都道府県や個別の図書館が公開しているOPAC（Online Public Access Catalog）を「どう有効活用するか」、私たちの生活にどうかかしてゆくか、という視点にある。

「図書館の現状の検索システムの使いづらさは、キーワードや書名を知らないと、検索できないところにある」と吉本さんは言う。「実際に図書館に行くのは、雑多感のある棚を見ているうちにおもしろい本に出会うからであって、それを実際にやってみるとは、わざわざ検索なんてしない。逆に、そもそも図書館に行かないひとたちにとっては、検索したい意味がない。図書館に行かなくてAmazonで本を買うひとも、欲しい本を買うことしかしていない。じゃあ、キーワードや書名を知らないひとでもおもしろい本に出会うにはどうしたらいいか……メンバーでそんな話をしていたんです」と。

そこから生まれた「カーリル」はだから、ある種の「ブック・ポータル」的な役割意識を、生まれながらにして持っている。すでに今日現在のバージョンでも、トップページから入れるカテゴリーにはたとえば「作家から探す」があって、芥川や漱石から村上春樹、村上龍や金原ひとみ、綿矢りさに至るまで、「ジャケ買い」的に書き手の写真が並んでいたり、「今日、誕生日の作家」（たまたまこの原稿を書いている4月11日はときた洗一と小林秀雄の名前が並んでいた。「機動戦士ガンダム00」を見つけたひとが「考えるヒント」にも出会ってしまう。そんな偶然がそこではWikipediaをもとにした「誕生日」で文脈化されているのだ）のリンクがある。

それらは現時点で、「カーリル」のシステムがOPACの情報に加えて活用している、Amazonの書誌情報やWikipediaの記事項目に由来している（それゆえ「今、話題の本」のカテゴリーにはちょっと意外なものまであって、そのイタズラ心もおもしろい）。だが本質においてそれは、書籍が電子化されてはるかに膨大な数になり、書店や取次あるいは出版社に限られていたアクセスポイントもどんどん拡散してゆく近い未来において、ひとつとがなを頼りに「本」を読むのか、という視点の提案であるはずだ……そんなイメージを吉本さんから聞いたとき、「紙の本が亡びるとき？」という自著でグーグル的な数値処理やAmazonの「この本を読んでいるひとはこんな本も…」的な連結が優越してゆく未来を懸念した筆者がなぜこの「カーリル」に直感的に惹かれたか、わかった気がした。そうして中津川に来て、「背表紙もスキャンできるスキャナーを自分で作っちゃおうかな」といたずらっぽく笑うDIY的な吉本さんたちによって作られていることに、ただの絵空事でない可能性をあらためて感じたのだった。

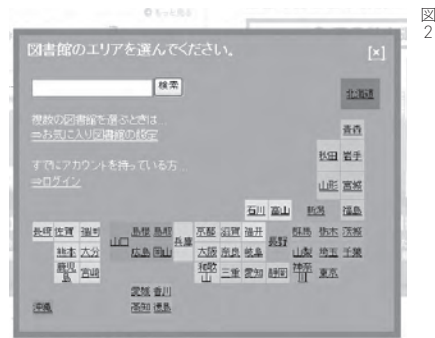


図2



図3

帰京して、中津川での会話を回想しながら「カーリル」のサイトを訪れると、「カーリルが世界中の図書館に対応」というリリースが早速アップされている。「カーリル」(<http://calil.jp/>)は、世界の図書館を検索対象に追加し、4万3000館以上の図書館/図書室の蔵書検索に対応しました。予告された「いつか」がわずか半日後だったとは！……その日がエイプリル・フールだと思出すのは、もう10時間くらい後のことである。

★

「ひとつとがなを頼りに「本」を読むのか」という視点は、「図書館」という存在がこれまでも、またこの先にはそれ以上に担うだろう役割とも、むしろ大きくかわっている。

だから「予想以上に大きくて驚いています」という図書館関係者の反応（国立国会図書館『カレントアウェアネス-E』所収「カーリルの中の人」が語る「カーリル」の裏側 <http://current.ndl.go.jp/e1035>）は今後ももっと大きく育っていくだろうし、AmazonやGoogle、Appleをはじめとする電子出版の無限分岐と図書館的な公共性との挟撃を受けるだろう書籍流通や出版にとっても、単純に現行のビジネスモデルの生き残りだけでなく、自分たちと「読むこと」との関係性を再構築してゆく手がかりやモデルのひとつになるはずだ。

その先にはどんな未来が描かれているのか——そのことを知るために次号では、大学でCreative Commonsも含めた著作権法を学び、大学院で情報系のHCI（ヒューマンコンピュータインタラクション）を研究したという、Notaの代表CEOである落西一周さんに話を聞く予定だ。（続く）

- ・ 図書館蔵書検索サイト「カーリル」<http://calil.jp>
- ・ カーリルのブログ「カリプロ」<http://blog.calil.jp/>
- ・ Twitter <http://twitter.com/caliljp>



開発合宿でのNoteメンバーたち。中央手前が吉本さん

今月のうちのオススメ

『白痴』

ドストエフスキー

「泣ける純愛」読むなら。

『言わなければよかったのに日記』

深沢七郎

知ったかぶりしなくても、
だいじょうぶ。

『海に落とした名前』

多和田葉子

自分探しをする前に。

『ハーモニー』

伊藤計劃

道德の時間専用 読む頭痛薬。

教えて！
図書館だより
拡張版

図書館蔵書検索サイト

「カーリル」 が拓く未来

text: Maeda Louis



今年の3月10日に公開され、わずか6日間で65万件もアクセスされたのが、図書館検索サイト「カーリル」<http://calil.jp/>だ。全国の公共図書館・図書室を中心に4300以上に対応した蔵書検索サイトで、ユーザーが任意に指定・登録した複数エリアの図書館システムから、希望する蔵書の有無や、その本が貸出中かどうかを調べることができる。そのサイトに、いま注目が集まっている。

「カーリル」のトップページ(2010年4月10日現在)は、図1のようなものだ。自分が調べたいエリアを選び図書館名を設定(図2)、検索ボックスに書名や著者名を入力すると(図3)、設定したエリアの図書館に収められた関連書籍の書影つきリストと、その本が貸出中かどうか、さらに(それ以前に登録してあれば)過去に自分がその本を読んだことや読みたいと

思ったことがあるかもわかる。本の詳細情報を開くと、その本の書誌データと収録情報、関連書籍や読者によるレビューなどが表示され、さらには(近くの図書館に蔵書されていなかったり貸出中だったり、あるいは借りるより持っていたと思った場合など)ネット書店で直接それを購入することもできるのだった。

3月の公開時からひとつき足らずの今日まででも、あれこれと機能が実装・追加されている「カーリル」は、開発時点でもひじょうに柔軟な体制をとっている。「カーリル」のサービス主体は「紙copi」等のソフトウェアやインターネット・サービス/企画を行う米国San Joseの企業Nota社(代表・洛西一周)だが、メンバーは京都・岐阜・神奈川などにて、それぞれNota以外の仕事も多く手掛けるという、

ネットワークを介した分散型の開発形態なのだ。

二十代後半を中心とした若いメンバーたちの開発した「カーリル」は、いま現在でも多くの可能性や利便性を持ち、「カーリル」が外部から接続・利用する図書館システムに携わっているひとたちはじめ多くの同世代や同業者の直接・間接のアクセスを受けているが、そこに秘められているのは今日の・共時的なシステムの利便性ととどまらず、近い将来の「本」やそれを読む環境、さらには「本」が生まれる環境にもかかわってゆく可能性でもある……。

そうした直感のもと、Notaのメンバーであり、岐阜県中津川市で行政システムの開発に携わっている、(株)RY SYSTEMの吉本龍司さんのもとを訪れた。「カーリル」公開から3週間、4月1日の朝である。

図1

教えて! 図書館だよ

日本はもちろん世界各地の図書館ではたらく人たちがイチオシの本を紹介!



『日本の歴史をよみなおす』

網野善彦

こんな先生に習いたかった



『算数少女』

遠藤寛子

和算の論理性にびっくり



『イトウの恋』

中島京子

史実と創作のすてきな交錯



『弟の家には本棚がない』

吉野朔美

読んだら誰かに教えたい



『短歌パラダイス』

小林恭二

短歌は戦い!

江戸川区立小松川図書館・司書

矢野京子 さん

バラのアーチと青春の響く都立小松川高校グラウンドに囲まれた地域図書館が、私の勤務する江戸川区立小松川図書館です。

御紹介するのは、私自身が中高生の時にめぐり合っていたらばと、いつも思っている本5冊です。

1冊目は網野善彦氏の『日本の歴史をよみなおす』。ジブリの「もののけ姫」を見て、その不思議な歴史観にひかれ、たどり着いたのが網野氏でした。

日本の転換期、中世の頃の文字、貨幣、差別、女性、日本という国号を話し言葉で論じ、常識でなく実証により日本を読み解いていきます。「紙背文書」、「落書起請」、「犬神人」などテクニカルタム満載ですが、やさしく丁寧に語る網野氏の人柄に惹き付けられ、歴史への興味がガンガンわいてくる本です。

2冊目は遠藤寛子の『算数少女』。千葉あきという少女が高度な和算を学び、今で言う数学問題集を江戸時代に出版したという事実に驚かされます。その『算数少女』という実在の本から創作されたお話です。円周率やピタゴラスの定理、無限級数まで登場します。和算なんて何の役に立つのだという世の中で、知識に対するあきの真摯な姿勢に心が躍ります。原典を和算の入門書として解説した『和算書「算数少女」を読む』もお薦め。最近出版された『天地明察』も和算が満載の時代小説です。

3冊目は『イトウの恋』。歴史好きの私としては『イザベラ・バードの日本紀行』をお薦めしたい

のですが、中高生にはちょっととごわいので、まずこの小説から始めて下さい。旅行家である英国人女性が、明治初期に東京から北海道まで旅した時の従者が、伊藤という青年で、旅行記にたびたび登場します。英語が堪能で、なかなか使える男のようである伊藤のその後について、日本側の記録はほとんど残っていません。『イトウの恋』はこの伊藤の手記が発見されたという設定で現在と過去、日本と英国を交錯しながら進むミステリー仕立てのラブストーリーです。重要な役で中学生も登場します。読み終えれば、作中でI.Bと称されるイザベラ・バードの旅行記が読みたくなるはずですよ。

次は漫画読書エッセイ『弟の家には本棚がない』。漫画家吉野朔美が、誰かにあげたい、教えたいという衝動にかられる本や俳句・映画・馬・男爵などのマニアックな題材の本を、読書中毒の友人たちとのやりとりとともに漫画で紹介していきます。短歌を4コマにしたり、漫画家ならではの視点がおもしろい。1冊の本から、次に読みたい本がどんどんあふれて来る。これこそ読書の醍醐味です。

この本で紹介されている『短歌パラダイス』が5冊目です。短歌なんてもう滅びかけたものと思っていましたが、20名の現代歌人による歌合(うたあわせ)、熱海の熱闘2日間を読むと世界が変わります。歌合は短歌を競う対抗戦であり、判者(はんじゃ)＝ジャッジ、方人(かたうど)＝プレイヤー、念者(おもいびと)＝応援者が繰り



広げる戦いは、平安のむかしから日本の文学とはこうやって形成されてきたのだと、実感できます。オランウータン、嘘、一郎、刑、台湾、邪、芽、あざらし、塗り絵などの不思議なお題から生まれ出てくる短歌の数々。わくわくするほど楽しいです。私のイチオシは、「台湾の蛇屋のむすめ楊月麗(ヤンユイレイ) 樹下にうたへばこのこゑなびく」です。この歌合の企画者兼著者の小林氏が語る短歌と俳句の決定的な違いにはびっくりします。知りたければぜひ御一読下さい。

中学生の頃から読書感想文が大嫌いでした。読んで面白かったのだから、それでいいじゃないかと思っていただけです。評価の対象でなく、誰かに大好きな本を紹介するためだと、こんなに楽しく書けるんですね。みなさんも素敵なお本にめぐり合えたら、友だちにその本を紹介してください。

つくりませんか?

アウト↓記入・入力↓切り取り↓貼り付けられるようになっていきます。みなさんオリジナルの「WB」を作ってみませんか?

を募集しています。ご応募いただいた方から毎号1名の方の「オススメ」を、カラーで紹介させていただきます。

でお送りください。

谷川 息子さん以外の子どもと話したりすることはあるの？

折野 街で小さい子を見ると、じっと見つめちゃうんです。「触りたいな」と思っていると、子どもの方から近づいてくれるんですよ。

谷川 なんかヤバイ(笑)。

折野 あと印象的だったのは、数年前にTVCMに出たことがあって。そのころ下北沢の道を通りすがった子どもが、僕の顔を見て「こんにちは」って挨拶したんです。そうしたら隣のお母さんがびっくりして、「なんであの人が挨拶したの？」と訊いてる声が、あとから聞こえた。最初僕も理由がわからなくて、「生き別れの息子のたましいが乗り移ったのか。神様からのメッセージか」と思ったんです。でもそうじゃなくて、子どもってけっこう人の顔を覚えているから、「あ、TVで見たことがある」と思ったんじゃないかな。でも、そういうことにいちいち動揺してしまう。

谷川 小学生に短歌を教えに行ったりもしたんでしょう？

折野 ええ、NHKの「課外授業ようこそ先輩」という番組で、母校の小学校6年生の子たちに。離婚直後で、とてもまいていたし、人生でいちばんガリガリに痩せていたときでした。子どもたちが「結婚してるの？」ってかわいく質問するから、「いや、離婚しちゃったんだよねー」って笑顔で話したりして辛かったんですけど……。

谷川 そういう話は、子どもたちにウケるでしょう？

折野 意外とわかってくれる子が多かったんです。あと子どもでも、親子関係が苦しくて「大人」になってしまった子が、とてもいい短歌をつくるんです。それこそ親子の確執を赤裸々に描いたような(笑)。でも、「この短歌を放映すると、保護者からクレームが来るから」と学校の先生に言われて、泣く泣くボツにしたりとか。



谷川 ぼくは子どもに向けて書くときに、ある時期までは子どもを「読者」として対象化していたんです。それが、佐野洋子の影響が強いだけけれど、自分の内部にある「抑圧している子ども」を外に出そうというふうに変換した。そういうことってある？ 自分のなかの幼児性、子ども性を意識すること。

折野 谷川さんは佐野さんと結婚される前から、「家庭画報」で子どもの詩を連載されたりしていましたよね？ 子どもの写真つきの。

谷川 やったかも。

折野 《うまれずにしんだ／おねえちゃんをおこして／うしろのしょうめんだあれ》(詩集『子どもの肖像』収録作「かお」後半部分より)とか、ひらがなばかりで書かれた詩でした。それを読んで、「なんて子どもの気持ちがよくわかってるんだろう、でもこれは子どもが読んでもわからない詩かもしれない」って……。子どもの言葉を借りた、大人がはっとする詩、ってところがある。

谷川 そうね、『はだか』という詩集が子ども性のはっきり出たものなだけけれど、明らかに大人向けなんでしょうね。

折野 そうか、佐野洋子さんの書かれるものが子ども性なのか。

谷川 あの人には記憶力もいいしね。

折野 僕には、子ども性は欠けているかもしれません。劇作家の前田司

郎さんとかも、子どもの気持ちを書くのがすごいうまいんですね。でも僕自身は、「どうしてこんなに？」って不思議になるくらい、子どものときのことをほとんど覚えてないんです。

谷川 ぼくも記憶で書いているんじゃないんですよ。現在ただいま自分のなかに、子どものときに感じたベーシックな感情がまだにある。淋しいとか不安とか、そのころと変わらないんです。それを書けば子どもの気持ちになるという、そういう書きかたなんですね。

折野 『にほんごの話』って対談集のなかでも、「人間の年齢を木の年輪の比喩で考えるようになった」と言っていましたよね。子どもの部分が中心にあって、その外にどんどん広がっていくように、歳をとっていく。

谷川 そう、ぼくは「年輪説」なんです。

折野 それは、いつでも核の部分に触れることができるんですか？

谷川 いや、意識下にあるから、すぐに取り出せないけれど、それがあつて知っていると、ぼんやりしているときにぼつと出てきたりはするんです。

折野 僕は、高校生くらいの自分には比較的すぐに戻れるんです。『僕は運動おんち』が高校生の話なんですけど、わりと自然に書けた。でも、それ以下の子ども時代はとても遠い。印象としては、なにも考えていなくて、いつも機嫌が良くて鼻歌を歌っているような子だったんです。

谷川 不安とかそういうものはあまりなかった？

折野 今思うと「知能障害があるんじゃないか」と思うくらいで。ふつうに学校に行っていたし、そんなには問題視されていなかったけれど、キョトンとして「世間のことなんてどうでもいい」と思っているというか。

谷川 世間とはともかくとして、たとえば「母親がいなくなっちゃうんじゃないか」とか「いつ自分が死ぬのか」と想像して怖くなって眠れなくなることはなかった？ 自分のふとんからそつと出ていって、母親がちゃんといるところを覗いて確かめるとか？

折野 それが不思議で、小さいときから、ひとりぼっちでも平気で、「お母さん、僕寝るからあつち行ってよ」と言う子どもだったみたいで。母親がそれを悲しい顔で僕に言うんです。

谷川 じゃあ、結婚もしなくていいような人なんだ。奥さんも「あつち行ってよ」って言われたら辛いよね(笑)。

折野 それも原因なのかな……。本当に、子ども時代の自分がなにを考えていたのか、ちっともわからない。僕が会えない息子にすごく感情移入するのも、自分の少年性みたいなものに危うさを感じているからかもしれないです。僕、物心ついたと思うのは20歳くらいなんです。最近なんて、「自分はまだ童貞なんじゃないか？」って錯覚しそうになるんです。「バツイチ、子どもありの41歳」なのに(笑)。

*注「広告批評」2004年1月号。

まだまだ続く熱い「人生相談」。怒濤の完全版を2010年5月中旬ごろ「早稲田文学編集室ウェブサイト」で公開決定！

FUSOSHA BOOK

無比なる文士たちの信念と孤独
評論家・福田和也の真骨頂文芸論!

**アイポッドの後で、
叙情詩を作ることは
野蛮である。**

福田和也 著 ●定価1,890円(税込)

扶桑社新書

傑作アルバム誕生の秘密に迫る
ジャズ評論の新しい挑戦!

**マイルスの夏、
1969**

中山康樹 著 ●定価798円(税込)

超世代文芸クオリティマガジン エンタクシー バックナンバー ●書店でご注文いただけます。各号の内容等は、本誌、または扶桑社ホームページでご確認ください。

en-taxi

エンタクシー29号
A5判 定価860円(税込)

責任編集
坪内祐三
福田和也
リリーフランキー

リニューアル号
好評発売中

ボブ・ディラン [特集]
ライブ・ツアー緊急レポート
ディラン68歳ソングライターの遺言
魂と音楽が跳ね返る場所の記録

坪内祐三 / みつらじゅん / 浦沢直樹
菅野ハツケル / 和久井光尚 / 菅啓次郎
諏訪哲史 / 中村よお / 中山康樹 / 湯浅学

近現代の皇室の
加藤陽子 × 福田和也
佐藤優 × 福田和也
皇室の母性と天皇の超越性

大澤信亮 / 原武史ほか
福田和也 / 本郷和人

近現代の皇室の
成井昭人「川つべりらば」
小説
佐伯一麦「香魚」
運載小説
杉田成道 / 大鶴義丹

ホシマタカシ
謎の山岳写真家真彦
田中長徳 / 南博 / 津村記久子
内田樹 / 樫昇 / 立川談志ほか

幻と新作「シナリオ」本同時発表
[未発表シナリオ]
笠原和夫
昭和の天皇 [準備稿]
唐十郎 [百人町]
[新作戯曲]

扶桑社 〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1 http://www.fusosha.co.jp ©お問合せ先 販売局 ☎03-5403-8859 (月~金10:00~17:00) **全国の書店でお求めください。**

柗野 情報は、本当にちょっとしか入ってこないんですけど、息子は僕に似て、運動ができないらしいです。それに勉強もできなくて、将棋だけが好きなんですって。それで、去年、『僕は運動おんち』って小説を書いたんです。とてもお気軽な青春小説なんですが、息子が読んだら、「ああ、お父さんもそうだったんだ」と思うかなって。今はそうやって、書くものに子どもへのメッセージを暗に込めるしかできなくて、『結婚失格』もカバーを外した表紙にメッセージを詩として書いたんです。それでも隠れるようにしたのは、「本文に堂々と載せるのは違うんじゃないか?」と思ったから。

谷川 柗野さんの本を元奥さんは読んでいるのかな?

柗野 読んでないと思います。あるときまで送ったりもしていたんですが、『結婚失格』も、主人公の「速水」があまりいい夫じゃないようにフェアに書いたんです。読んだ人はみんな、「これじゃあ離婚するよ」って言う。

谷川 フィクションなんだよね?(笑)

柗野 ええ、主人公の男はAV監督に、奥さんはドラマ脚本家にして、エピソード一個一個もついています。でも、実際に経験したことをもとに書いたんです。別に「いい人」と思っしてほしいわけじゃないんですが、「奥さんが読んでくれるといいな」と思っているし、子どもが大きくなって読んだときに「こんなことがあったんだ」と思ってもらいたいなと。

★

柗野 谷川さんは3度結婚されていますけれど、お子さんに会えない時期はありました?

谷川 ないです。2番目の妻の子どもで、別れたときには子どもも大人になっていましたから。

柗野 ずっと交流があったんですね。お子さんたちは、小さいころから「お父さんは詩人の谷川俊太郎だ」という意識をもっていたんですか?

谷川 自分たちは思っていないけれど、学校で父親の職業を聞かれて恥ずかしかったみたい(笑)。

柗野 「お父さんは詩人」ってなかなか言えないですよ(笑)。

谷川 そう、それもずっとついでまわるからね。娘はいまニューヨークでぜんぜん違う仕事をしているから関係ないけど、息子のほうは音楽で、一緒に舞台に出たりしているから、どうしてもね。何よりぼく自身、「哲学者・谷川徹三の息子」っていまだに書かれる。

柗野 お父様とは良好な関係だったんですか?

谷川 ひじょうに淡泊な関係ですね。

柗野 最初に詩を発表したときも、お父様に読ませたということですが。

谷川 大学にも行かずにぶらぶらしてたから、「お前、これからどうすんだ」みたいな話になったんです。それで詩のノートを渡した。彼は若いころに詩を書いていたから、ある程度はわかったんです。丸つけたり三角つけたりするから、「なんだ、この野郎!」みたいな感じだったんだけど(笑)。それで三好達治さんのところに持って行ってくれたわけだから、いちおう認めてもらえたんでしょうね。

柗野 僕の場合、思春期には親とあんまり良好な関係じゃなかったんです。むしろ離婚してから仲良くなりました。あと歳を重ねて、だんだん父親に似てきたんです。敵と味方が極端に分かれたり、物忘れが激しくていつも書類なくしたり。「血筋って恐ろしいな」ってときどき思うんです。その分、父親がよくわかるようになってきた。

谷川 お父さんとは何か衝突があったの?

柗野 事件はないんですけど、思春期の男ってそうじゃないですか? 本当にいやでした。「日航機事故」ってありますよね。あれ、父がいつも乗っている便だったんです。ニュースを聞いたときには「あ、死んだのか」と思ったぐらいなだけけれど、その日は偶然に乗らなかった。そのときに「自分は父親が死ねばいいと思ってるんだ」とびっくりして。いま振り返ると、そこまで憎まれるべき父親ではないんです。単に理系な人で、子どもとの会話が「風はなぜ吹くか?」とか理系話ばかりだったんです。谷川さんも、お父様が哲学者だと……。

谷川 うちは、コミュニケーションがなくて済んでいた親子なんです。

ぼくはひとりっ子でしょう。もう完全にマザコンで、母親がまた100%愛してくれた。それで、父と母とぼくは、小説家の丹羽文雄が三角関係として書いたことがあるぐらいの関係だったわけ。父はぼくが生まれた直後から浮気をしているしね。彼はだいたい離れた座敷でずっと仕事しているんです。ご飯も一緒に食べないのがふつう、一緒に遊んでくれることもほとんどなくて、遠い存在でした。話すようになったのは、ぼくが学校に行かなくなったところからです。たまに一緒に旅行すると、「この場所は誰の城だったか?」って。

柗野 歴史のテストだ(笑)。

谷川 すごくいやでさ。そういうときも、母親経由で「やめてほしい」って言うんですよ。父親の方も、何かあると母親を通して言う。「君子の交わりは淡きこと水のごとし」って故事があるけれど、本当に対立とか軋轢とかなかったです。

柗野 もうずっと離れた感じ?

谷川 ただ、父親観はいろいろ変化していきました。いちばん大きな変化は、うちの両親は、ふつうに仲良くやっていると信じ込んでいたのね。だけどそうじゃなくて、もうゴタゴタがたくさんあったわけ。それからもうひとつは、母が認知症になったときの父の態度ですね。もう典型的な「日本の男」で、自分は手を出さない。「インテリってのはダメだ」って思いましたね(笑)。

柗野 小さいころから「お父さんはインテリだ」って理解していました?

谷川 そんなことはなかったけれど、なにしろ本がずうっと壁みたいにある家じゃないですか。それに何か書いているわけだし。検印紙って、むかし本の奥付に著者が判子を押してたやつだけれど、それを母親の手伝いでやるわけですよ。コタツの上に何百枚も並べて、押していくわけじゃない。「友だちのお父さんとは違うことをやっている」って意識はあった。まあ、ぶきつちよな人だから、子ども目線で話しかけるとか絶対できなかった人。

柗野 谷川さん自身は、初期から子どもに向けた詩も書いていらっやるし、そのへんは「反面教師」だったんですか?

谷川 ぼくは柗野さんとは違って、最初っから商売。三好達治にいちおう認められて、「文學界」に載って、徐々に注文が来だす。でも、ぼくは大学に行っていないし、「どうやって食っていかうか」がいちばん大きな問題だった。それで「書くしかない」と思って、来る注文でできることはぜんぶ引きうけていたんです。子どもを対象にしはじめたのも、マーケットとして、いわゆる現代詩よりも童話とか童謡のほうが金になると踏んだからなんです。

柗野 それはたいへん明確な姿勢で、さすががしい。

谷川 みんなに嫌がられますけど、詩はそういうもんだと思っていなから。十代の終わりから「商売でやるんだ」とはさすがに考えていなかったけれど、「なんとか食わなきゃいけない」というのが、「いい詩を書こう」という意識よりもはるかに強かったのは確かなんです。あと、ぼくは「詩人になろう」って思っただけから。たまたま、詩みたいなのが書けただけの話なんです。

柗野 運動が得意そうなところもそうだし、谷川さんは詩人っぽくないですよ。昔、詩人たちが海辺で撮影した集合写真を見たことがあるんです。詩人たちはみんなガリガリなのに、谷川さんだけはスポーツマンみたいなんですよ。

谷川 日に焼けててね、なんかかっこよかったんだ、あのこと(笑)。

柗野 「この中で詩人じゃない人、誰?」って言われたら、みんな谷川さんを指すんじゃないかって。

谷川 「詩人とはこういうもの」って先入観が柗野さんにもあるんだ。みんなそうなんだけれど。

柗野 でも、だからこそ、谷川さんはジャンルのエッジというか輪郭をつくる仕事をされてきたのかもしれないよ。

谷川 どうなんだろう。昔から詩壇みたいなものが漠然とあったわけです。中だけで完結している感じの。それがすごくいやで、「誰にでも読んでもらえるような詩を書きたい」というのが最初からあったんです。

★

楽しい文学

Wonderful BUNGA KU

谷川俊太郎 + 枘野浩一

新城カズマ

米光一成 + ナカシマカズユキ

nanakikae

モブ・ノリオ

斎藤美奈子

玉川重機

松田青子 + たけなみゆうこ

今日マチ子

こども
WB

¥0

歌人は詩人に相談をした
はるかなる息子へ言葉を届けたい

対談

たにかわしゅんたろう

谷川俊太郎

枘野浩一

ますのこういち

枘野 お久しぶりです。前に雑誌で対談したのは、2003年の末くらいでしたね。ちょうど僕が離婚した後で*。

谷川 対談でもその話をしたんだよね。枘野さんとは、そういう危機的な状況のときに会うことが多い気がする。

枘野 そうなんです。相変わらずいい状態じゃなくて、最近では母が倒れて入院中なんです。それに、ずっと息子にも会えないまま。もう10歳になったんですよ……。(その後、看病疲れで父も別の病院に入院)

谷川 ぜんぜん会えてないの？ よく映画なんかだと、父親が物陰から子どもがどうしてるか見るじゃない。それはやってないの？

枘野 1回やったんです、保育園で。『結婚失格』という離婚を題材にした小説にも書きました。そうしたら、この本を読んだ、法律を勉強中の若い男の人が「枘野さんがストーカーみたいに子どもに会いに行っていて、奥さんからしたら恐ろしい行為だ」(大意)ってツイッターで書いていたんです。結局、頑固な側が勝っているというか。別れた奥さんも、いま3度目の結婚をして子どもが5人いるんですね。

谷川 本当、へえー。

枘野 最初の旦那さんのときの子が1人、僕との間の子が1人、それに再婚相手の連れ子がいて、さらに2人生まれたんです。そうなると、も

う入りこめない感じなのは確かです。

谷川 5人も子どもがいて、「ひとりぐらい返してもいい」とか思わないのかな？

枘野 彼女のいまのパートナーは、その連れ子のお母さんには会わせているんです。だけど、僕の元奥さんは、その行為自体を「心が不安定になってしまう」って非難する調子でエッセイに書いている。

谷川 「別れた父親に会わせちゃいけない」って信じているわけか。

枘野 結局、その人の人生観との戦いになってしまうんです。僕は普段はわがままな方なのに、この場合は「向こうに譲らなきゃ」って気持ちがあるから、よりこじれているんだと思うんです。そのへん、同じようなトラブルにあった人が身近にいないので。

谷川 そうだね(笑)。別れた奥さんは、子どもに枘野さんのことをどういうふうに言っているんだろうね。スパイしてくれそうな共通の友人いないの？

枘野 それが、僕と別れた奥さんのどちらかに二分しちゃったんです。ふたり共通の編集者もいるんですけど、やっぱり仕事だからか何かを聞いても曖昧な返事が来るし。

谷川 子どもの様子はぜんぜんわからないの？